

電波新産業創出戦略

新たな電波新産業の創出とともに、我が国が抱える様々な社会問題を解決し、ユーザーの生活の更なる向上を図るため、2015年までに5つの電波新産業創出システムを実現し、2020年までに更に高度化・発展させることが不可欠

5つの電波新産業創出プロジェクト

新たな周波数の配分と研究開発とを連動させ、一体となって取り組む5つのプロジェクトを創設

- ▶ 携帯電話用に現在の4倍の2GHz幅の配分を行うため、計1.4GHz幅を追加配分
- ▶ SHV衛星放送用に21.4-22GHz帯を配分
- ▶ 衛星/地上デュアルモード携帯電話用に2GHz帯を配分

ブロードバンドワイヤレスプロジェクト

- ◆ブロードバンドモバイル ◆デジタル放送
- ◆衛星システム

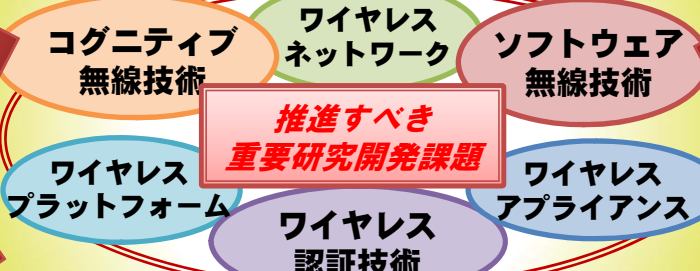
- ▶ 家庭内ワイヤレススーパーブロードバンド用に準ミリ波帯(25/27GHz帯)及びミリ波帯(60GHz帯、70GHz帯、120GHz帯)等を配分
- ▶ ワイヤレス電源供給用にVHF帯、マイクロ波ISM帯を配分

家庭内ワイヤレスプロジェクト

- ◆無線チップ ◆非接触ブロードバンド
- ◆ワイヤレス電源供給

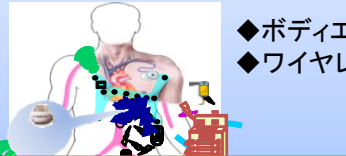
インテリジェント端末プロジェクト

- ◆シンクライアント端末 ◆ワイヤレス臨場感通信



医療・少子高齢化対応プロジェクト

- ◆ボディエリア通信
- ◆ワイヤレスロボティクス



2015年に現在の20倍、2020年に100倍の周波数利用効率の向上技術とともに利活用技術も含めた研究開発を実施

安心・安全ワイヤレスプロジェクト

- ◆センサーネットワーク ◆安心・安全/自営システム
- ◆ワイヤレス時空間基盤

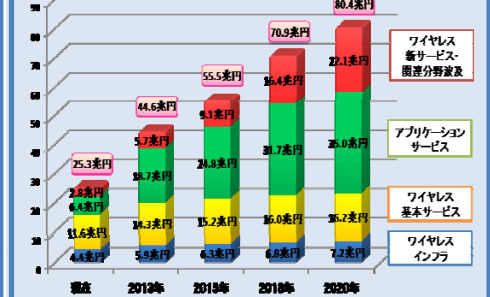


- ▶ 医療用無線システム用に400MHz帯を配分

- ▶ 広域エリアセンサーネットワーク用にVHF帯を配分
- ▶ ITS自動車レーダーに79GHz帯、車車間通信に700MHz帯等を配分
- ▶ 列車、航空用無線の高度化・ブロードバンド化用に40GHz帯を配分

経済的波及効果 (市場の創出)

電波新産業創出プロジェクトの実現により、2020年に50兆円規模の新たな電波関連市場を創出



これらの直接効果に加え、70兆円規模の波及効果を創出

2015年 ⇒ 37.6兆円
2020年 ⇒ 68.9兆円

積極的な国際展開方策により、更に8兆円規模の新たな輸出市場も創出

2015年 ⇒ 6兆円
2020年 ⇒ 8兆円

5つの推進プログラム

電波新産業創出プロジェクトの実現に向け分野横断的な環境整備を実施

研究開発と連動した「新たな周波数再編アクションプランの策定」

現在の携帯電話用周波数を4倍に拡大する周波数再編の取組方針及び周波数有効利用のため国が実施する研究開発を明確化、両者を連動させたアクションプランを策定

ユーザ参加型のオープンなテストベッドを活用した「アプリケーション開発や社会実証の推進」

ワイヤレス技術の総合的な研究開発が実施可能なテストベッドを活用したアプリケーション開発や社会実証の推進を通じて、電波利用技術の開発を強力に支援

国際展開を念頭に置いた産学官一体の「ブロードバンドワイヤレスフォーラムの設置」

現在の国内中心の電波ビジネス構造から脱却し、積極的な国際展開を可能とする研究開発、標準化戦略を策定するため、産学官の関係者から成るフォーラムを設置

電波産業の創出を推進するための「電波利用制度の抜本的見直し」

免許不要局の範囲の見直し、技術基準策定の提案制度の導入。新技術導入に対応した技術基準適合証明制度の整備、ホワイトスペース活用のための技術的検証。

多様化する電波環境へ対応した「電波利用環境の整備」

電波利用に伴う人体等の安全性の確保のための研究の推進、電波監視体制の整備充実、技術基準の不適合機器への対応

社会的波及効果 (諸問題の解決)

電波新産業創出プロジェクトの実現により、我が国が抱える諸問題の解決に貢献

- ◆ 少子高齢化問題
- ◆ 環境・資源問題
- ◆ 医療問題
- ◆ 食料問題
- ◆ 災害問題
- ◆ 格差問題 等